平成 26 年 4 月 25 日
日本原子力研究開発機構
広報部長　瀬戸口　啓一

4 月 24 日東京新聞 26 面「「もんじゅ」存続エネ基本計画の思惑」
に対する中日新聞東京本社への意見

標記記事内のコラム「デスクメモ」を読み、「もんじゅ」開発当事者として看過しがたく、意見をお伝えします。

今般、エネルギー基本計画が策定され、「もんじゅ」においてもその位置づけ、ミッションが明確に示され、原子力機構としては与えられた課題に対し、経営と現場一丸となって、責任をもって取り組んでまいります。

一方で、本基本計画に示された我が国における原子力の位置づけ、さらには「もんじゅ」の位置づけ、なすべきことに関し、それぞれのお立場、お考えで賛成・反対のご意見はあるものと認識しています。

しかしながら、２４日の貴コラム「デスクメモ」における表現、「～。これは福島事故に関連して亡くなった人々を再び殺すことに等しくはないか、事故が反省の礎になれば、無念も浮かばれるかもしれない。しかし、そのかけらもない。法に触れぬ罪だ。」に関しては、原子力の研究開発に携わる者として決して許すことのできない表現であります。貴コラムの言う、福島事故に関連して亡くなった人々とは具体的にどのような方々か、そして何をもってそのような方々を「再び殺す」などということが言えるのか、私どもは事故を教訓に福島以後、更なる安全性を追求し、我が国のため、人類のため、原子力の平和利用を進めていく自負とともにそこに誇りをもっています。今後の原子力の存在そのものを否定するのは自由、しかし一方、人類のためのミッションとして原子力研究開発・平和利用に携わる者として貴コラムのそのような考え、言葉は存在しないということをここに明確にお伝えしておきます。